

## 渡邊淨司 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史  
副主査 辻 谷 俊 一  
同 池 口 正 英

### 主論文

TSLP expression and high serum TSLP level indicate a poor prognosis in gastric cancer patients

(TSLP発現と血清TSLP高値は胃癌患者の予後不良を示す)

(著者：渡邊淨司、齊藤博昭、宮谷幸造、池口正英、梅北善久)

平成27年 Yonago Acta medica 掲載予定

### 参考論文

1. Maintaining a surgery service for local hospitals under the situation of a decreasing number of surgeons in a region of Japan

(外科医が減少している日本における地域病院に対する外科医療維持)

(著者：渡邊淨司、齊藤博昭、大谷眞二、池口正英)

平成26年 World Journal of Surgery 38巻 3063頁～3066頁

2. Perioperative outcomes after pancreaticoduodenectomy in elderly patients

(高齢患者に対する膵頭十二指腸切除術の周術期成績)

(著者：渡邊淨司、花木武彦、荒井陽介、徳安成郎、坂本照尚、本城総一郎、大谷眞二、池口正英)

平成27年 Hepato-Gastroenterology 62巻 590頁～594頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌組織と胃癌患者血清を用いて、TSLP発現の有無と血清TSLP値を測定し、臨床病理学的因子および予後との比較から、胃癌におけるTSLPの臨床学的意義を検討したものである。その結果、TSLP発現は胃癌の進行と関係があり、血清TSLP値は胃癌の予後予測因子として有用であることを述べ、また、再発胃癌の対する治療としてTSLPがターゲットとなる可能性も示している。本論文の内容は、胃癌に対する腫瘍免疫学の分野において血清TSLP値の測定が胃癌の予後予測に有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。